

科目名	社会科学演習				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	村田 祐貴子
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年				
授業概要	社会科学分野(政治、経済、社会、時事)について、オリジナルレジュメを用いて、公務員本試験の過去の問題について演習を行い、実戦力を培う。 10月～2月に学んだ知識を確認し、様々な問題に対応できる力を身に付ける。				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
		○			
	○				
目標	各本試験の過去の問題を解くことで、解答力を培う。				
目標	各本試験の過去の問題を分析し、その傾向を理解する。				
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ(担当講師作成のオリジナル授業レジュメ)				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	社会科学演習1			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	2	社会科学演習2			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	3	社会科学演習3			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	4	社会科学演習4			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	5	社会科学演習5			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	6	社会科学演習6			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	7	社会科学演習7			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	8	社会科学演習8			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	9	社会科学演習9			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	10	社会科学演習10			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	11	社会科学演習11			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	12	社会科学演習12			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	13	社会科学演習13			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	14	社会科学演習14			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	15	社会科学演習15			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	16	社会科学演習16			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	17	社会科学演習17			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	18	社会科学演習18			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	19	社会科学演習19			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	20	社会科学演習20			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	21	社会科学演習21			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	22	社会科学演習22			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	23	社会科学演習23			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	24	社会科学演習24			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	25	社会科学演習25			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	26	社会科学演習26			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	27	社会科学演習27			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。

	28	社会科学演習28	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	29	社会科学演習29	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	30	社会科学演習30	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
評価方法	4月～6月の間、毎週実施する昼間模試の社会科学分野の成績を基準・材料とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。点数は、得点率を基に、100点満点に換算する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	昼間模試	◎	◎				100%
履修上の注意	昼間模試とは過去の本試験問題についての模試形式による演習である。過去の本試験問題として、国家一般職(大卒)、国税専門官、裁判所職員(一般職)、特別区等の直近5年分の問題を解く。昼間模試の教養試験に含まれる、政治、経済、社会、時事が社会科学の内容科目となる。通常の授業とは別のコマで実施する。 社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	人文科学演習				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	小川 文夫
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年				
授業概要	人文科学分野(日本史、世界史、地理)について、オリジナルレジュメを用いて、公務員本試験の過去の問題について演習を行い、実戦力を培う。 10月～2月に学んだ知識を確認し、様々な問題に対応できる力を身に付ける。				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
		○			
	○				
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ(担当講師作成のオリジナル授業レジュメ)				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	人文科学演習1			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	2	人文科学演習2			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	3	人文科学演習3			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	4	人文科学演習4			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	5	人文科学演習5			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	6	人文科学演習6			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	7	人文科学演習7			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	8	人文科学演習8			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	9	人文科学演習9			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	10	人文科学演習10			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	11	人文科学演習11			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	12	人文科学演習12			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	13	人文科学演習13			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	14	人文科学演習14			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	15	人文科学演習15			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	16	人文科学演習16			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	17	人文科学演習17			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	18	人文科学演習18			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	19	人文科学演習19			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	20	人文科学演習20			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	21	人文科学演習21			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	22	人文科学演習22			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	23	人文科学演習23			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	24	人文科学演習24			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	25	人文科学演習25			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	26	人文科学演習26			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
27	人文科学演習27			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。	

	28	人文科学演習28	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	29	人文科学演習29	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	30	人文科学演習30	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
評価方法	4月～6月の間、毎週実施する昼間模試の人文科学分野の成績を基準・材料とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。点数は、得点率を基に、100点満点に換算する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	昼間模試	◎	◎				100%
履修上の注意	<p>昼間模試とは過去の本試験問題についての模試形式による演習である。過去の本試験問題として、国家一般職(大卒)、国税専門官、裁判所職員(一般職)、特別区等の直近5年分の問題を解く。昼間模試の教養試験に含まれる、日本史、世界史及び地理が人文科学の内容科目となる。通常の授業とは別のコマで実施する。</p> <p>社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。</p>						

科目名	自然科学演習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	上村 一則		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	自然科学分野(数学、物理、化学、生物及び地学)について、オリジナルレジュメを用いて、公務員本試験の過去の問題について演習を行い、実戦力を培う。 10月～2月に学んだ知識を確認し、様々な問題に対応できる力を身に付ける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					各本試験の過去の問題を解くことで、解答力を培う。	
	○					各本試験の過去の問題を分析し、その傾向を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ(担当講師作成のオリジナル授業レジュメ)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自然科学演習1			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	2	自然科学演習2			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	3	自然科学演習3			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	4	自然科学演習4			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	5	自然科学演習5			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	6	自然科学演習6			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	7	自然科学演習7			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	8	自然科学演習8			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	9	自然科学演習9			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	10	自然科学演習10			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	11	自然科学演習11			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	12	自然科学演習12			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	13	自然科学演習13			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	14	自然科学演習14			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	15	自然科学演習15			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	16	自然科学演習16			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	17	自然科学演習17			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	18	自然科学演習18			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	19	自然科学演習19			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	20	自然科学演習20			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
評価方法	4月～6月、毎週実施する「屋間模試」の成績を基準・材料とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。点数は、得点率を基に、100点満点に換算する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 また、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		屋間模試	◎	◎			
履修上の注意	屋間模試とは過去の本試験問題についての模試形式による演習である。過去の本試験問題として、国家一般職(大卒)、国税専門官、裁判所職員(一般職)、特別区等の直近5年分の問題を解く。屋間模試の教養試験に含まれる、数学、物理、化学、生物及び地学が自然科学の内容科目となる。通常の授業とは別のコマで実施する。 社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	数的処理演習				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	40時間	担当者	花水倫尚、田辺英彦
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年				
授業概要	数的処理分野(判断推理及び数的推理)について、オリジナルレジュメを用いて、公務員本試験の過去の問題について演習を行い、実戦力を培う。 10月～2月に学んだ知識を確認し、様々な問題に対応できる力を身に付ける。				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
		○			
	○				
テキスト・教材 参考図書	オリジナルレジュメ(担当講師作成のオリジナル授業レジュメ)				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	数的処理演習1			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	2	数的処理演習2			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	3	数的処理演習3			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	4	数的処理演習4			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	5	数的処理演習5			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	6	数的処理演習6			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	7	数的処理演習7			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	8	数的処理演習8			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	9	数的処理演習9			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	10	数的処理演習10			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	11	数的処理演習11			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	12	数的処理演習12			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	13	数的処理演習13			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	14	数的処理演習14			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	15	数的処理演習15			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	16	数的処理演習16			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	17	数的処理演習17			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	18	数的処理演習18			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	19	数的処理演習19			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	20	数的処理演習20			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	21	数的処理演習21			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	22	数的処理演習22			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	23	数的処理演習23			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	24	数的処理演習24			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	25	数的処理演習25			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	26	数的処理演習26			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。
	27	数的処理演習27			間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。

	28	数的処理演習28	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	29	数的処理演習29	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	30	数的処理演習30	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	31	数的処理演習31	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	32	数的処理演習32	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	33	数的処理演習33	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	34	数的処理演習34	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	35	数的処理演習35	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	36	数的処理演習36	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	37	数的処理演習37	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	38	数的処理演習38	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	39	数的処理演習39	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
	40	数的処理演習40	間違った問題のやり直しのみならず、正解に達した問題であっても、理解が不十分な問題の見直しを行う。				
評価方法	4月～6月、毎週実施する「昼間模試」の成績を基準・材料とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。点数は、得点率を基に、100点満点に換算する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 また、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	昼間模試	◎	◎				100%
履修上の注意	昼間模試とは過去の本試験問題についての模試形式による演習である。過去の本試験問題として、国家一般職(大卒)、国税専門官、裁判所職員(一般職)、特別区等の直近5年分の問題を解く。昼間模試の教養試験に含まれる、判断推理及び数的推理が数的処理の内容科目となる。通常の授業とは別のコマで実施する。 社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	教養・専門総合演習					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	堀内尊功、上村一則、岡田広一郎、 花水倫尚、三角徳之、田辺英彦、名越大介	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の本試験について問題実践を行い、解答力を培う。 ・演習に対応した解説講義を受講することで、基本事項の理解の確認を行い、応用問題への対応力を培う。 					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○				各本試験の過去の問題を解くことで、解答力を培う。
	○					各本試験の過去の問題を分析し、その傾向を理解する。
テキスト・教材 参考図書	テキスト・教材・参考図書は使用しない。 模試演習プリント(問題・解説)を配布する。					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習1			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	2	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習2			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	3	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習3			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	4	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習4			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	5	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習5			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	6	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習6			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	7	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習7			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	8	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習8			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	9	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習9			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	10	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習10			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	11	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習11			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	12	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習12			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	13	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習13			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	14	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習14			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	15	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習15			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	16	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習16			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	17	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習17			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	18	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習18			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	19	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習19			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	20	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習20			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	21	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習21			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	22	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習22			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	23	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習23			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	24	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習24			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	25	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習25			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	26	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習26			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	27	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習27			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	28	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習28			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	29	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習29			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	30	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習30			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	31	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習31			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	32	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習32			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	33	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習33			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	34	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習34			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	35	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習35			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	
	36	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習36			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。	

37	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習37	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
38	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習38	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
39	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習39	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
40	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習40	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
41	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習41	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
42	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習42	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
43	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習43	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
44	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習44	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
45	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習45	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
46	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習46	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
47	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習47	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
48	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習48	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
49	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習49	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
50	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習50	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
51	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習51	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
52	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習52	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
53	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習53	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
54	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習54	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
55	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習55	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
56	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習56	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
57	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習57	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
58	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習58	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
59	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習59	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
60	本試験の過去の問題を使用した模試形式の演習60	間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。					
評価方法	4月～6月の間、毎週実施する昼間模試の教養試験・専門試験の成績を基準・材料とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。点数は、得点率を基に、100点満点に換算する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	昼間模試	◎	◎				100%
履修上の注意	1回の演習が3コマに跨る。これを4月より実施する。使用する問題は過去に出題された本試験の問題である。国家一般職、国税専門官、特別区、裁判所職員、警視庁、東京消防庁等の問題を使用する。 社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	経済原論演習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	名越 大介		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の本試験について問題実践を行い、解答力を培う。 ・演習に対応した解説講義を受講することで、基本事項の理解の確認を行い、応用問題への対応力を培う。 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					各本試験の過去の問題を解くことで、解答力を培う。	
	○					各本試験の過去の問題を分析し、その傾向を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト・教材・参考図書は使用しない。 模試演習プリント(問題・解説)を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	基礎演習①(ミクロ1~4) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	2	基礎演習②(ミクロ5~8) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	3	基礎演習③(マクロ1~5) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	4	基礎演習④(ミクロ9~13) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	5	基礎演習⑤(マクロ6~9) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	6	基礎演習⑥(特別区対策) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	7	過去問演習①(特別1、国家1、地上1) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	8	過去問演習②(特別2、国家2、地上2) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	9	過去問演習③(特別3、国家3、地上3) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	10	過去問演習④(特別4、国家4、地上4) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	11	過去問演習⑤(裁判所事務官対策①) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	12	過去問演習⑥(裁判所事務官対策②) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	13	過去問演習⑦(国家5、地上5) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	14	過去問演習⑧(国家6、地上6) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	15	過去問演習⑨(国家7、地上7) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	16	過去問演習⑩(国家8、地上8) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	17	過去問演習⑪(国家9、地上9) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	18	過去問演習⑫(国家10、地上10) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	19	過去問演習⑬(国家11、地上11) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
	20	過去問演習⑭(国家11、地上11) 演習及び解説授業			間違った問題のやり直しのみならず、理解が不十分な問題の見直しを行う。		
評価方法	4月以降毎週実施する「昼間模試」の成績を基準・材料とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。点数は、得点率を基に、100点満点に換算する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	昼間模試	◎	◎				100%
履修上の注意	授業の性質上、1回につき2時間で実施する。昼間模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。・昼間模試とは過去の本試験問題についての模試形式による演習である。・過去の本試験問題として、国家一般職(大卒)、国税専門官、裁判所職員(一般職)、特別区等の直近5年分の問題を解く。・昼間模試の専門試験に含まれる、ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学が経済系科目となる。社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	法律分野演習					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	三角徳之、高取仙貴、岡田広一郎	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の本試験について問題実践を行い、解答力を培う。 ・演習に対応した解説講義を受講することで、基本事項の理解を確認を行い、応用問題への対応力を培う。 					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○				各本試験の過去の問題を解くことで、解答力を培う。
	○					各本試験の過去の問題を分析し、その傾向を理解する。
テキスト・教材 参考図書	テキスト・教材・参考図書は使用しない。 模擬試験演習プリント(問題・解説)を配布し、これを使用する。					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	憲法①・行政法①			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	2	民法①			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	3	憲法②・行政法②			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	4	民法②			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	5	憲法③・行政法③			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	6	民法③			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	7	憲法④・行政法④			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	8	民法④			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	9	憲法⑤・行政法⑤			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	10	民法⑤			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	11	憲法⑥・行政法⑥			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	12	民法⑥			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	13	憲法⑦・行政法⑦			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	14	民法⑦			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	15	憲法⑧・行政法⑧			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	16	民法⑧			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	17	憲法⑨・行政法⑨			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	18	民法⑨			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	19	憲法⑩・行政法⑩			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	20	民法⑩			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	21	憲法⑪・行政法⑪			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	22	民法⑪			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	23	憲法⑫・行政法⑫			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	24	民法⑫			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	25	憲法⑬・行政法⑬			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	26	民法⑬			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	27	憲法⑭・行政法⑭			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	28	民法⑭			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	29	憲法⑮・行政法⑮			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	30	民法⑮			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	31	憲法⑯・行政法⑯			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	32	民法⑯			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	33	憲法⑰・行政法⑰			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	34	民法⑰			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	35	憲法⑱・行政法⑱			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	
	36	民法⑱			誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。	

37	憲法⑱・行政法⑱	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
38	民法⑱	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
39	憲法⑳・行政法⑳	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
40	民法⑳	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
41	憲法㉑・行政法㉑	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
42	民法㉑	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
43	憲法㉒・行政法㉒	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
44	民法㉒	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
45	憲法㉓・行政法㉓	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
46	民法㉓	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
47	憲法㉔・行政法㉔	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
48	民法㉔	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
49	憲法㉕・行政法㉕	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
50	民法㉕	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
51	憲法㉖・行政法㉖	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
52	民法㉖	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
53	憲法㉗・行政法㉗	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
54	民法㉗	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
55	憲法㉘・行政法㉘	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
56	民法㉘	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
57	憲法㉙・行政法㉙	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
58	民法㉙	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
59	憲法㉚・行政法㉚	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
60	民法㉚	誤った問題のやり直し及び正解に達した問題の確認を行う。					
評価方法	4月以降毎週実施する「昼間模試」の成績を基準・材料とする。以上を下記の観点・割合で評価する。点数は、得点率を基に、100点満点に換算する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	昼間模試	◎	◎				
履修上の注意	昼間模試は過去の本試験問題についての模試形式による演習である。過去の本試験問題として、国家一般職(大卒程度)、国税専門官、裁判所職員(一般職)、特別区等の直近5年分の問題を解く。昼間模試の専門試験に含まれる、憲法、行政法、民法が法律分野科目となる。なお、社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	行政分野演習				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	村田 祐貴子
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	公務員中上級専攻科1年				
授業概要	行政分野(政治学、行政学等)において、オリジナルレジュメを用いて、公務員本試験の過去の問題について演習を行い、実戦力を培う。 10月～2月に学んだ知識を確認し、様々な問題に対応できる力を身に付ける。				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
		○			
	○				
目標	各本試験の過去の問題を解くことで、解答力を培う。				
目標	各本試験の過去の問題を分析し、その傾向を理解する。				
テキスト・教材 参考図書	担当講師によるオリジナルレジュメ(過去の本試験問題掲載)				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	行政分野演習1			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	2	行政分野演習2			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	3	行政分野演習3			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	4	行政分野演習4			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	5	行政分野演習5			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	6	行政分野演習6			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	7	行政分野演習7			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	8	行政分野演習8			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	9	行政分野演習9			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	10	行政分野演習10			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	11	行政分野演習11			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	12	行政分野演習12			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	13	行政分野演習13			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	14	行政分野演習14			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	15	行政分野演習15			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	16	行政分野演習16			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	17	行政分野演習17			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	18	行政分野演習18			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	19	行政分野演習19			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	20	行政分野演習20			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	21	行政分野演習21			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	22	行政分野演習22			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	23	行政分野演習23			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	24	行政分野演習24			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	25	行政分野演習25			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	26	行政分野演習26			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。
	27	行政分野演習27			オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。

	28	行政分野演習28	オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。				
	29	行政分野演習29	オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。				
	30	行政分野演習30	オリジナルレジュメ掲載の本試験問題の見直しを徹底する。				
評価方法	4月～6月の間、毎週実施する屋間模試の専門科目行政分野の成績を基準・材料とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。点数は、得点率を基に、100点満点に換算する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	屋間模試(毎週)	◎	◎				100%
履修上の注意	屋間模試は通常の授業とは別のコマ内で実施する。・屋間模試とは過去の本試験問題についての模試形式による演習である。・過去の本試験問題として、国家一般職(大卒)、国税専門官、裁判所職員(一般職)、特別区等の直近5年分の問題を解く。・屋間模試の専門試験に含まれる、政治学、行政学、国際関係等が行政分野科目となる。 社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						